

「日々の理科」(第 4193 号) 2026, -2, -1

「山梨県扇山の山火事 (最終回)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

災害の状況というのは、報道や SNS を見ればある程度はわかります。しかし、実際に自分の目で見ないと実感できないという面もあります。昨年訪れた「新燃岳の火山灰降灰状況」や「能登半島地震のその後の状況」もそうでした。現地には足を運び、自分の目で見てこそ、最も正しいその時点の状況が理解できると思うのです。



消防団や警察の警備の方々は、突然の訪問者にも、丁寧に対応してくださいました。「通行止めです」ではなく「こちらは現在警備中なので、申し訳ございませんが迂回してください」という対応でした。しかもいくつかの質問にも、非常に丁寧に応えて下さいました。昼夜休みのない警備に、頭が下がりました。



夕方、かなり遅い時刻に猿橋駅に戻ってきました。扇山の左裾には、まだ火災の煙が見えました。



暗くなってきたので、この日のヘリコプターによる消火活動はすでに終了していました。しかし、山林火災は夜も続き、消防や警察の方の警備は続いています。



私は 17:34 発の東京行に乗る予定でした。そのあとに 17:59 発の立川行がありますが、実はこの列車は、3月のダイヤ改正で消滅します。大月よりも先の中央本線(甲府・小淵沢・松本など)からの直通の普通列車は、すべて高尾までの運転に変更されるからです。この「立川行」の表示が見られるのも、あとわずかな期間となりました。



列車が来るまでに、空はすっかり暗くなりました。火災現場は見えにくくなりましたが、煙とともに、わずかに赤く映っているのがわかります。この数日後、今回の山林火災は鎮火したという報道がありました。